公益財団法人 日本野鳥の会
Wild Bird Society of Japan

探鳥会スタッフ通信　2016年7月号

「探鳥会スタッフ通信」は、探鳥会の考え方や様々な運営手法について、全国の連携団体の探鳥会リーダーの皆様と情報交換を行うための通信です。

目 次

◆**探鳥会訪問記特別編**・・・・・・・・・・・1
（日本野鳥の会千葉県幹事研修会 参加報告）
◆**探鳥会保険集計結果**・・・・・・・・・・・3
（2016年5月分）
◆**普及室からのお知らせ**・・・・・・・・・・5
・探鳥会リーダーズフォーラム西日本を開催します！
・大人の休日倶楽部でバードウォッチング入門講座を開催
・『フィールドガイド日本の野鳥』増補改訂新版の取り組み
◆**今月の購読者数**・・・・・・・・・・・・・11
◆**探鳥会スタッフ通信の購読について**・・・12
◆**編集後記**・・・・・・・・・・・・・・・・12

◆探鳥会訪問記特別編（日本野鳥の会千葉県幹事研修会 参加報告）

日本野鳥の会千葉県の幹事研修会に参加しましたので、ご報告します。

今回の研修会は、幹事の探鳥会での対応を向上させ、会員の定着率・リピーター率を向上させることを目的に開催されました。研修会の中で出された主だった意見をご紹介します。

なお、千葉県では、毎月幹事会を開いているそうですが、このような研修会は初めてとのことでした。会員減が目下の課題として幹事のみなさんの共通認識になっていて、それを解決していこうという強い想いが感じられました。

また、研修会のなかで、過去の「探鳥会スタッフ通信」から、他の支部の探鳥会の事例を紹介する場面があり、各支部の取組みが、他の支部で参考にされていることが分かりました。

【日時】2016年6月25日（土）
10時～12時45分
【場所】千葉県立中央博物館　講堂
（千葉県千葉市）
【参加者】日本野鳥の会千葉県幹事33名、
財団事務局普及室　江面
【目的】幹事の基本的マナーを向上し、会員の定着率・リピーター率を向上させる。

【プログラム】
（1）10時～
討議：（議題）各探鳥地で起こった共有する事項／会員減少対策／探鳥会参加リピート率をあげる対策／ベテランしか通じない隠語は使わない／各幹事からの提言
（2）11時45分～
総括：日本野鳥の会千葉県　志村会長
（3）12時～
講義：千葉県の野鳥について
千葉県立中央博物館　桑原学芸員

【内容】
（1）討議
議題1）各探鳥地で起こった共有する事項
「民家の周囲で観察する時、住民に不快感を与えないように配慮」「列が長くなってしまい、迷子をださないように」など、普段の探鳥会での問題点や配慮していることを共有しました。また、「探鳥会の幹事は、鳥を教えるだけではなく、進行管理や参加者への気配りをするのが役目であることを認識し直さなければならない」などの意見もあがりました。

議題２）会員減少対策
　まず、「HP を充実させては」という意見があり、参加者に探鳥会の口コミを投稿してもらう、千葉県の野鳥についてもっと情報発信を、会員専用ページを作って入会のメリットを作る、などのアイディアが挙げられました。
　次に、「なぜ会員が減少しているか、検証しては。退会理由は何か」との意見があり、「（退会理由は）探鳥会に行けなくなったという声が多い」との見解が挙がりました。それに対し「野鳥の情報は簡単に手に入る時代。会が、探鳥会以外のメリットを提案できていない。会員になるメリットを説明できていない」との意見が挙げられました。
　また、探鳥会で非会員の方への情報提供をしようとの提案がありました。例として「入会案内を配る」「連絡先を聞いて、ハガキで次回の探鳥会案内を送る」などの取組みが紹介されました。
　さらに、「次世代への普及も大切。小学校への出前授業や親子向け探鳥会を積極的に」などの声も上がりました。

議題３）探鳥会参加リピート率をあげる対策
　「常連の参加者と大声で話さないなどの配慮を」「初めての参加者には、幹事が最初から最後まで気を配って案内する」など、参加者への配慮についての意見があり、また、「メールによる情報提供であれば、無料でできる。試してみてはどうか？」「公民館、市民センターなどで地元の人に探鳥会の情報を提供する」「集合場所が分かりにくいことがある。例えば、駅名を載せるのであれば、『〇〇線』まで説明を加える配慮を」などのアイディアも挙げられました。

議題４）ベテランしか使わない隠語を使わない
　「初心者に分かりにくいことはしない、という認識が大切。『鳥あわせ』『目録』など、当たり前に使っている言葉を初めての方がどう感じるか、考えるべきでは」などの意見がありました。

議題５）各幹事からの提言
・名札を活用する：「初めての参加者には、名札をケースごと差し上げてはどうか」「他の団体の観察会に参加したとき、名札用紙の裏面に、次の探鳥会の予定が書いてあった。良いアイディアだ」などの意見がありました。

・ビギナーズ探鳥会を増やす：「ビギナーズ探鳥会は、幹事・リーダーにとって手間がかかる。しかし、やりがいもある。負担ではあるが、地道な努力が報われる。続けた方が良いと思う」などの意見がありました。

（２）総括：志村会長
　幹事研修会をやろうとしたきっかけは、会員減をなんとかしないと、という想いから。今日は、多くの幹事が集まり、活発な研修会になった。普段思ってもみない意見が聞けた。探鳥会に行ってよかった、おもしろかったと参加者に思ってもらえるようにしていきたい。

（３）講義
　桑原学芸員より、探鳥会で初心者や子供との会話のきっかけとなる話題の提供や、千葉県の野鳥の動向についての講義がありました。

▲研修会の様子

（普及室／江面康子）

◆探鳥会保険集計結果（2016 年 5 月分）

5 月は 66 支部からご報告をいただき、計 326 回の探鳥会が開催され、のべ 8,669 人が参加されました。

表 1. 5 月の探鳥会保険集計結果（2016 年 6 月 15 日現在）

支部	開催回数（回）	参加者数		スタッフ数	合計人数（人）
		会員（人）	非会員（人）		
小清水	–	–	–	–	–
オホーツク支部	5	95	23	5	123
根室支部	–	–	–	–	–
釧路支部	–	–	–	–	–
NPO法人日本野鳥の会十勝支部	–	–	–	–	–
旭川支部	4	57	23	8	88
滝川支部	2	23	9	3	35
道北支部	2	17	2	3	22
江別支部	–	–	–	–	–
札幌支部	4	151	69	11	231
小樽支部	3	20	22	3	45
苫小牧支部	–	–	–	–	–
室蘭支部	3	27	4	7	38
函館支部	0	0	0	0	0
道南桧山	4	30	42	10	82
青森県支部	–	–	–	–	–
弘前支部	10	93	33	10	136
秋田県支部	3	36	24	4	64
山形県支部	7	55	33	10	98
宮古支部	–	–	–	–	–
もりおか	4	70	135	24	229
北上支部	3	25	26	6	57
宮城県支部	5	58	38	10	106
ふくしま	2	51	10	5	66
郡山支部	4	73	18	14	105
二本松	–	–	–	–	–
白河支部	1	0	0	5	5
会津支部	–	–	–	–	–
奥会津連合	–	–	–	–	–
いわき支部	2	40	9	2	51
福島県相双支部	–	–	–	–	–
南相馬	–	–	–	–	–
茨城県	12	98	123	22	243
栃木	–	–	–	–	–
群馬	3	39	18	10	67
吾妻	1	8	0	1	9
埼玉	10	257	85	57	399
千葉県	6	74	32	22	128
東京	13	646	31	72	749
奥多摩支部	13	208	77	47	332
神奈川支部	14	269	60	46	375
新潟県	–	–	–	–	–
佐渡支部	–	–	–	–	–

富山	3	57	17	3	77
石川	4	56	17	9	82
福井県	8	31	66	18	115
長野支部	3	64	18	6	88
軽井沢支部	3	31	19	3	53
諏訪支部	2	13	8	5	26
木曽支部	2	12	7	4	23
伊那谷支部	-	-	-	-	-
甲府支部	1	24	2	2	28
富士山麓支部	3	18	14	8	40
東富士	-	-	-	-	-
沼津支部	2	22	2	4	28
南富士支部	3	70	5	5	80
南伊豆	1	7	3	2	12
静岡支部	4	56	15	8	79
遠江	3	88	47	14	149
愛知県支部	15	203	166	38	407
岐阜	-	-	-	-	-
三重	7	79	35	11	125
奈良支部	5	149	29	10	188
和歌山県支部	1	4	4	4	12
滋賀	6	57	46	12	115
京都支部	12	173	73	27	273
大阪支部	25	510	166	125	801
ひょうご	8	125	176	25	326
NPO法人日本野鳥の会鳥取県支部	5	72	73	6	151
島根県支部	1	10	8	1	19
岡山県支部	5	115	88	17	220
広島県支部	5	52	50	14	116
山口県支部	4	19	46	6	71
香川県支部	3	84	55	4	143
徳島県支部	5	65	26	5	96
高知支部	1	12	20	1	33
愛媛	6	90	51	10	151
北九州	4	53	20	7	80
福岡支部	7	123	62	16	201
筑豊支部	5	50	15	5	70
筑後支部	-	-	-	-	-
佐賀県支部	1	10	7	1	18
長崎県支部	-	-	-	-	-
熊本県支部	3	16	23	7	46
大分県支部	3	28	30	3	61
宮崎県支部	3	26	43	5	74
鹿児島	4	70	27	12	109
やんばる支部	-	-	-	-	-
石垣島支部	-	-	-	-	-
西表支部	-	-	-	-	-
全国	326	5,264	2,525	880	8,669

備考：-は保険の申請がなかったことを示しています。

（普及室）

◆普及室からのお知らせ

■探鳥会リーダーズフォーラム西日本を開催します！■

今年度の探鳥会リーダーズフォーラムは、10 月に兵庫県神戸市で西日本版を、1 月に東京都八王子市で東日本版を開催します。

10 月の西日本版募集要項ができましたのでお知らせします。みなさまのお申し込みをお待ちしています。

【実施概要】

＜時　期＞ 2016 年 10 月 29 日（土）
13:00 ～ 30 日（日）12:00
＜主　催＞ （公財）日本野鳥の会　普及室
＜旅行実施＞ （株）南海国際旅行
＜会　場＞ 六甲山 YMCA
＜対　象＞ 支部、連携団体の探鳥会に関わっている方
＜定　員＞ 50 名（定員になり次第締め切り）
＜参加費＞ 10,000 円（1 泊 2 日）
＜プログラム＞

1 日目
13:00　受付
13:30　オリエンテーション
基調講演
「出会いと学びの場としての探鳥会」
上田恵介氏
（公益財団法人日本野鳥の会副会長）

15:00　アイスブレイキング
16:00　第 1 分科会
18:00　チェックイン、休憩
18:30　夕食
19:30　懇親会
23:00　終了

2 日目
6:30　早朝探鳥会／自由集会（自由参加）
7:30　朝食、チェックアウト
8:30　全体集会
8:45　第 2 分科会
10:15　休憩、移動
10:30　全体集会
12:00　終了

▲前回のフォーラムの様子

＜分科会＞

29 日　分科会 A（1 日目）

A-①
「インターネットの広報活用術入門」
渡辺裕幸（岡山県支部）

入会促進を目的とした活動を行うときに重要になってくるのが広報です。新聞や雑誌などのマスコミに情報を掲載してもらうという方法もありますが、今はホームページやブログ、SNS やツィッターなどのインターネットを活用した媒体が不可欠です。インターネットによる情報発信を行う支部が増えれば、相互リンクによる相乗効果で全体としてより効果的な広報媒体にすることができます。この分科会では、インターネットを活用した広報の事例をご紹介し、日本野鳥の会の情報発信を考えていきたいと思います。

A-②
「広がれ！若者向け探鳥会！手さぐりからはじめませんか？」
寺田綾乃（京都支部）・駒田峰子（大阪支部）・田阪知子（奈良支部）

東京・栃木・埼玉・大阪支部・岡山県支部・奈良支部・京都支部で開催されている「若者向

け探鳥会」。着実に広がりを見せて、それぞれの地域で鳥や自然に関心のある若い人たちの集まりが生まれつつあります。分科会では、各地の取り組みの様子を報告していただくとともに、奈良支部で若者向け探鳥会をバックアップしてきたベテランリーダーから、なぜ支部で若者向け探鳥会を始めることになったのかについてお話をうかがいます。

A-③
「あったらいいな！バードウォッチング新商品開発ワークショップ」
生田南美子（財団普及室）

バードウォッチングの新商品は探鳥の場から生まれます。これまでもあの「バードウォッチング長靴」をはじめ、「首ラック」「観察ブラインド」「鳴き声タッチペン」などの人気商品の数々がバードウォッチングの現場から生まれてきました。この分科会では、日ごろ探鳥会やバードウォッチングでフィールドに出ている皆さんの経験から、「あったらいいな！こんなバードウォッチンググッズ」について話し合ってみたいと思います。

30日　分科会B（2日目）

B-①
「野鳥をテーマに子どもたちの心に伝わる環境学習のスキルを身につけよう！」
丸谷聡子、紀田俊明（ひょうご）

小学校や幼稚園等での環境学習を想定した分科会です。例えば、一人のリーダーで 100 人の児童に野鳥の不思議や自然のつながりを伝えるには、どんな工夫が必要でしょうか？子どもたちをひきつける話し方や教材を考えたり、ネーチャーゲームの手法も取り入れたりしながら、子どもたちの心に響く学習の場を創造していきましょう。事例紹介編⇒みんなで考えるワークショップ編⇒すぐに役立つ実習編の３部構成です。みんなでスキルアップしましょう！

B-②
「探鳥会で人材をリクルート」
西村克之（京都支部）

「会員を増やすための探鳥会」「バードウィーク探鳥会」など、定例の探鳥会とは別の企画をやろうとすると問題になってくるのが、どうやってスタッフを集めるかということ。新しいことをやるためには新しいスタッフを増やさないと支部の運営はパンクしてしまいます。この分科会では、京都で行ってきた「平日探鳥会」を活用した人材のリクルート術について事例紹介をしていただき、支部での人材のリクルートを考えてみたいと思います。

B-③
「街がフィールド！ツバメをテーマとしたプログラムを考えよう」
堀本理華（財団普及室）

都市で暮らす人々にとってもっともなじみ深い鳥の一つがツバメです。しかし、支部でツバメをテーマにして活動されているところはまだまだ少ないようです。一般の方々に日本野鳥の会を PR する手段としてツバメをテーマにした活動を展開されてはいかがでしょうか？市街地でツバメの子育てを観察するときには、自然の中で観察するときとは全く異なるノウハウがあります。この分科会ではツバメをテーマにしたときに支部でどんなことができるか考えてみたいと思います。

▲参加者集合写真

◇お申し込み◇
■参 加 費：10,000 円

■振 込 先：
銀 行 名　三井住友銀行
支 店 名　目黒支店
口　　座　（普）６９７９９４８
口座名義　公益財団法人　日本野鳥の会　　理事長　佐藤　仁志
※振込時は　ザイ）ニホンヤチヨウノカイで大丈夫です。

■申込方法：
下記ホームページよりお申込ください。
https://www.pac-sys.net/nmes-nankai/entry/?tancho-kansai2016

＜お申込のみに関するお問合せ先＞（お申込以外のお問合せは財団普及室へ）
（株）南海国際旅行 TEL：03-3543-3272（担当：松山）

■申込期間： 2016 年 7月21日（木）～　9月30日（金）　（定員になり次第締切）

＜その他フォーラム全般についてのお問い合わせ＞
（公財）日本野鳥の会　普及室　堀本、箱田
〒141-0031　東京都品川区西五反田 3-9-23 丸和ビル
TEL：03-5436-2622
FAX：03-5436-2635
メール：tancho-staff@wbsj.org

（普及室／箱田敦只）

■大人の休日倶楽部でバードウォッチング入門講座を開催■

５月 25 日（水）に葛西臨海公園で JR 東日本「大人の休日倶楽部」の会員の方向けに探鳥会を実施しました。講師は当会理事の松田道生さんと当会普及室長の富岡辰先です。当日の様子をご報告いたします。

参加者は「大人の休日倶楽部」の会員の方 30 名。ほとんどがバードウォッチング初心者の方でした。
今回の講座では、前半に室内でバードウォッチングのコツなどについての講義をした後、実際に外に出て観察、まとめを行いました。野外では、いきなり双眼鏡で野鳥を探すのではなく、まず肉眼でじっくり野鳥を探したり、野鳥の声に耳を澄ませて声に注目するなど、講義で聞いたバードウォッチングのコツを実践される参加者の姿が多くみられました。

【日時】2016 年５月 25 日（水）
９時 30 分～12 時 30 分
【天候】曇り
【参加人数】30 人
【開催地】葛西臨海公園（東京都江戸川区）

◇講義「バードウォッチング入門」

集合場所の駅前広場から葛西臨海公園内のレクチャールームまで、講師の松田道生さんを先頭にゆっくり歩いて移動しました。講義ではまず、参加者に駅からレクチャールームまでの移動の間に何種類の鳥がいたかを問いかけ、参加者と一緒に見た野鳥の種類を確認しました。全部で 12 種の野鳥がいたことを確認。これらの鳥を見つけるコツとして、鳥はいるものだと思って探してみることが大事というバードウォッチングの心構えのお話がありました。
次に野鳥の見つけ方として野鳥を見つける

時は声による発見が 60%～70%であり、声が聞こえたらまず肉眼で野鳥を探すこと、また野鳥が木のどんなところにとまっているかを頭のなかにイメージができることが大切という説明がありました。

またバードウォッチングの必需品である図鑑や双眼鏡の選び方についても紹介。図鑑についてはなぜ写真ではなくイラストの写真がいいのか、シロハラの尾羽の両側の白い部分が写真ではなかなか撮影できないことを例に説明がありました。双眼鏡の選び方では双眼鏡の倍率と口径の説明や家電量販店で購入する際の注意点を実際の事例を紹介しながらの解説がありました。

▲レクチャールームでの講義の様子

◇バードウォッチング体験

講義の後は鳥類園内で 1 時間バードウォッチングを行いました。

当日はニコンのモナーク 7　30 台を参加者に貸し出ししました。参加者のほとんどがバードウォッチング初心者で双眼鏡を持っている人も少なく、持っていた方もオペラグラスや小型の双眼鏡が多かったので、モナーク 7 を使っていただき、見え方の違いも体験していただきました。

まずは双眼鏡で野鳥を見ることに慣れる練習です。最初は双眼鏡の視野に素早く動く野鳥を入れることに苦戦していた参加者の方々も時間とともに少しずつ慣れてきたようで、徐々に「見つけた」という歓声が増えていったように感じました。

鳥類園内では繁殖シーズンであることもあり、ヒナを連れたカルガモやカイツブリなどこの時期ならではの野鳥の姿を観察することが出来ました。特にカイツブリの巣に関して水上に巣作ることに驚かれている参加者の方も多くみられました。

▲バードウォッチング体験の様子

◇まとめ

野鳥を観察した後は鳥あわせを行いました。また、観察中に質問が多かったことから、当会普及室長の富岡から再度、双眼鏡の選び方についての説明と今後の普及室のイベントの紹介をし、最後に図鑑類の販売を行いました。

（普及室／植月智子）

■『フィールドガイド日本の野鳥』増補改訂新版の取り組み■

◇アシか、ヨシか？

『新・山野の鳥』（改訂版）の増刷に際して、ヒメアマツバメの翼開長などのようにヤマドリ雌の全長も新版で記載した新たな数値に揃えたい・・・と前回、書きました。今回は、逆に、『フィールドガイド日本の野鳥』を新版で『新・山野の鳥』などに揃えた事例を紹介させて下さい。

『フィールドガイド日本の野鳥』では増補改訂版（2007 年発行）まで、アシ、アシ原と書かれていた部分を、新版（2015 年発行）ではすべて、ヨシ、ヨシ原としました。『新・山野の鳥』『新・水辺の鳥』ではヨシ、ヨシ原で統一していることに揃えたわけです。ヨシをアシと呼んでも、日本語として間違いとは言えないかも知れませんが、植物の標準和名としてはヨシが用いられているからです。

高野伸二の歴史的な遺作として『フィールドガイド日本の野鳥』を残すというミッションと、当会の財産として今後も活用するために時代に応じた修正を加えるというミッションのせめぎ合いの中で、悩むことが多々あります。高野が書いた部分は、確実な間違いと言えない限りは、できるだけ残すことを基本にしているのですが、「さえずり」の定義のように悩みつつも、微妙に変えてきたものもあります。

増補改訂版以降、参考文献としている『鳥類学辞典』（2004.昭和堂）では、「さえずりと地鳴きの区別は慣例的なもので厳格な定義はむずかしい」と前置きした上で、鳴き方から区分する考え方と、機能で区分する考え方などが解説されています。鳴き方で区分するには「一般に地鳴きは単純で、さえずりは複雑」とされますが、ヤブサメのシシシシシやマキノセンニュウのチリチリチリなどは複雑と言えるでしょうか？　ウグイスの谷渡りやモズの高鳴きなど、単純か？複雑か？が微妙なものあり、人の捉えかたによっても違うように思われます。

機能で区分する場合、なわばり宣言的な機能を持つ声をさえずりとするなら、モズの高鳴きをさえずりと呼んでもおかしくありません。ただし、それは一般的な雄による繁殖なわばりの主張ではなく、雌雄の別なく越冬のためのなわばりを主張していると考えられており、繁殖期ではなく、秋に聞かれます。また、多くはないものの、秋や冬に繁殖期と同じような鳴き方で鳴く例、繁殖期に雌が雄のように複雑に鳴く例も知られています。鳥たちの声は多様で、機能はさまざまに考えられるだけでなく、調べられていないことが少なくありません。

◇さえずるのは小鳥だけか？

高野は、『フィールドガイド日本の野鳥』初版でさえずりの用語解説を「繁殖期に主に小鳥類の雄が発する特徴のあるよい声で、なわばり宣言と雌の誘致の機能があるといわれる。鳥によっては大きな単調な叫び声が同様の機能を持つが、その場合はさえずりとは普通いわない」と書いていました。種ごとの解説文でも、非スズメ目では「さえずる」という言葉を使っていません。

新版では悩みつつも、高野が書いた文はできる限りは残す方針から、非スズメ目では「さえずる」ではなく「鳴く」をそのままにしてあります。新版をお持ちの方は、P326 のオウチュウカッコウの声の解説文を見て下さい。そこでも高野の文章に揃えて、「さえずる」ではなく「鳴く」にしています。

ただし、日本語としては分類、機能、雌雄や季節も問わずに「さえずる」はよく使われます。近年は、非スズメ目でも繁殖期特有の鳴き方をさえずりと呼んでいる図鑑もあるし、モニタリングなどの調査でも、カッコウ目の雄の繁殖期特有の鳴き方は、繁殖可能性を示唆するために、さえずりとしているそうです。

私は『新・山野の鳥』の解説を担当した際、さえずりを「繁殖期に主に雄が出す声」として『フィールドガイド日本の野鳥』と大きくずれないように配慮しつつも、鳴き方による区分は考えないようにしました。また、非スズメ目であってもカッコウ目、キジ目、ハト目などの雄の繁殖期特有の声はさえずりとしました。

さらに、今日では『新・山野の鳥』『新・水辺の鳥』は鳴き声タッチペンを使って声を再生できるようになり、ペンでタッチする部分にＳ（さえずり）とＣ（地鳴き）が記されています。ＳにもＣにも区分しにくい声もすべていずれかにしてあったので、事後に見せられて愕然としたのですが、著者である私の責任でもあります。そこで私がチェックしてからは、表紙裏に「音源提供者が繁殖期の声としたものをＳとした」と注意書きを入れてもらいました。

◇小鳥とは小さい鳥か？

「繁殖期に主に雄が出す」ではなく「繁殖期に主に小鳥の雄が発する」となっている『フィールドガイド日本の野鳥』では、「小鳥とは？」が記されているべきです。高野はもともと種の解説の前に科、その前に目を解説しており、スズメ目の解説の中で、・・・足は発達していてよく木にとまる。また、鳴管が発達していて、よい声でさえずるものが多い・・・と書いていました。私はそこに・・・多くは小型で、一般にまとめて「小鳥」と呼ばれるが、カラス科には大型の種もいる・・・とか、・・・「鳴禽類」とも呼ばれていた・・・などを追記しました。

なお、小鳥の定義については、かつて野鳥誌の連載として書いたものが、現在もホームページ http://www.birdfan.net/bw/hint/anzai/037.html で見られますが、『新・山野の鳥』では、P5 の「はじめに」で、小さくなったワケについて触れてあります。

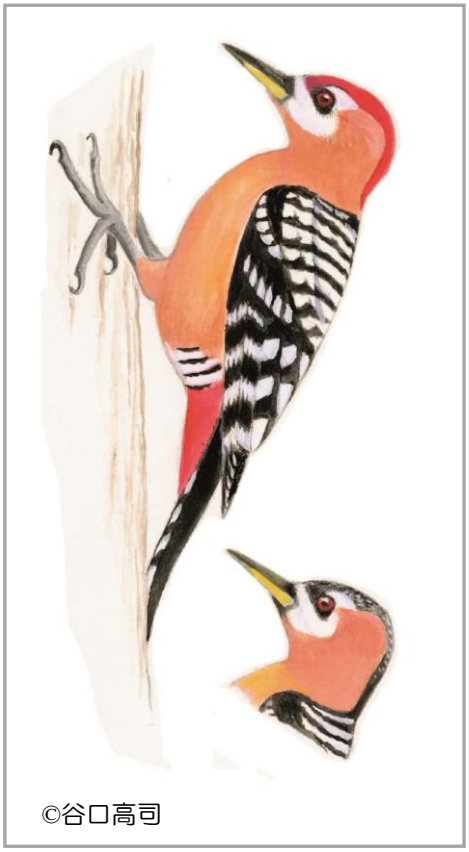
話しがわかりにくくて申し訳ないのですが、私は「小鳥＝スズメ目」「さえずり＝繁殖期の声」と定義すべきと主張しているのではありません。厳密に定義することが難しい中で、図鑑としてはどう扱えばよいか？を考え、悩み続けている次第です。

さえずりをどのように定義しても例外が出てくるのに、さえずり以外はすべて地鳴きとするような図鑑も見受けられますが、私は、少なくとも「鳥の声はさえずりと地鳴きに分けられる」という言い方はしないほうがよいと思います。新版では地鳴きの用語解説で「季節や雌雄を問わずに発せられる」という観点を加え、P21 では警戒を意味する声、幼鳥の声、交尾の際の声などにも触れるようにしました。

さえずりを繁殖期の声とするなら、交尾の際の声のほか、ディスプレイで発せられる声（カルガモ雄のヒーッなど）、雌雄デュエットの場合（コジュケイの雌がチョットコイの間に挟む声など）もさえずりに含めてよいのでしょうか？　コジュケイではピョーと聞こえる一声や、コッ、コッ、コッと続ける声も、私は繁殖期以外に聞いたことがありません。これらをさえずりと呼ぶには違和感もありますが、季節や雌雄が限られているなら、地鳴きと呼んでよいものか？と考えてしまいます。

さえずりがないスズメ目の例外として、よくカラス科とヒヨドリがあげられます。が、ヒヨドリにはピーヨロイロピなど、複雑な鳴き方も知られています。１羽でいる時に発せられることが多いようですが、その機能、雌雄や季節による傾向などはよくわかっていません。また、ここ数年、ヒヨドリの「ピピ、ジューイ」という声を各地で耳にするようになり、「わからない声」として問い合わせも増えています。繁殖期前後に、アンテナなどの比較的目立つところにとまって、単独で、決まった節回しで繰り返し鳴くなどの点はさえずりのイメージに合うのですが、頻度が高い場所や個体は限られているように思えます。

（普及室／安西英明）



▲新版で谷口高司さんに追加していただいた図版から、今回はチャバラアカゲラ（上：雄、下：雌）です。特徴的な色を再現してもらうべく多々資料を集めましたが、谷口さんは韓国図鑑ですでに描いていたので、取り越し苦労となりました。

◆今月の購読者

探鳥会スタッフ通信７月号の電子メール版の購読者数は、先月から８名増えて837名です。支部ごとの購読者数は以下の通りです。

表２．探鳥会スタッフ通信７月号電子メール版の購読者数（2016年７月12日現在）

支部	購読者数	支部	購読者数
小清水	1	福井県	10
オホーツク支部	6	長野支部	2
根室支部	0	軽井沢支部	2
釧路支部	2	諏訪支部	5
NPO法人日本野鳥の会十勝支部	70	木曽支部	1
旭川支部	4	伊那谷支部	1
滝川支部	1	甲府支部	3
道北支部	1	富士山麓支部	0
江別支部	0	東富士	0
札幌支部	4	沼津支部	3
小樽支部	3	南富士支部	2
苫小牧支部	2	南伊豆	2
室蘭支部	5	静岡支部	3
函館支部	0	遠江	12
道南桧山	2	愛知県支部	33
青森県支部	1	岐阜	5
弘前支部	4	三重	19
秋田県支部	3	奈良支部	3
山形県支部	5	和歌山県支部	5
宮古支部	1	滋賀	19
もりおか	3	京都支部	31
北上支部	2	大阪支部	26
宮城県支部	39	ひょうご	15
ふくしま	3	NPO法人日本野鳥の会鳥取県支部	11
郡山支部	1	島根県支部	10
二本松	1	岡山県支部	23
白河支部	2	広島県支部	8
会津支部	2	山口県支部	4
奥会津連合	0	香川県支部	6
いわき支部	1	徳島県支部	6
福島県相双支部	0	高知支部	1
南相馬	0	愛媛	14
茨城県	21	北九州	12
栃木	45	福岡支部	11
群馬	25	筑豊支部	19
吾妻	1	筑後支部	6
埼玉	37	佐賀県支部	5
千葉県	18	長崎県支部	1
東京	55	熊本県支部	14
奥多摩支部	47	大分県支部	3
神奈川支部	20	宮崎県支部	3
新潟県	1	鹿児島	3
佐渡支部	1	やんばる支部	0
富山	3	石垣島支部	1
石川	29	西表支部	2
		合計	837

（普及室）

◆探鳥会スタッフ通信（電子メール版）の購読について

探鳥会スタッフ通信は、支部の探鳥会スタッフならどなたでも購読できます。（無料です）
ご希望の方は、「探鳥会スタッフ通信希望」と明記のうえ、①支部名 ②担当している探鳥会名 ③お名前 ④ご住所 ⑤電話番号 ⑥メールアドレス（パソコンやスマートフォンのアドレス）を記入し、tancho-staff@wbsj.org へお申し込みください。バックナンバーとともにメール版を送信いたします。
配信を希望されない、メールアドレスの変更などについても、tancho-staff@wbsj.org までお知らせください。

★編集後記

そろそろセミの声が賑やかになってきました。木の葉も繁り、鳥を見るのも声を聞くのも難しい時期ですね。こんな時期の探鳥会は、「ツバメのねぐら入り観察会」がお勧めかもしれません。これから各地で開催される皆さん、成功をお祈りしています。
また、早くもリーダーズフォーラム西日本版のお申込みも始まります。興味深い分科会がそろっていますので、奮ってご参加ください。

先日はサンコウチョウを間近で見る事ができました！・・・が、声も聞こえるし、姿も見えているのに、樹間をチョロチョロと動き回って、私だけが決定的な長い尾や顔をとらえられず、なんとなく残念。でも、贅沢を言ってはいけませんね。

（普及室／植木陽子）

日本野鳥の会
探鳥会スタッフ通信　第40号
◆発行
（公財）日本野鳥の会　2016年7月15日
◆担当
普及室　普及教育グループ
〒141-0031
東京都品川区西五反田3-9-23丸和ビル
TEL：03-5436-2622
FAX：03-5436-2635
E-mail：tancho-staff@wbsj.org